

平成25年度 南魚沼郡家庭科部 活動報告

部長 中俣 友子

1 研究主題

「実践的・体験的な授業づくりに向けての学習過程の工夫」

2 研究推進の概要

(1) 部会 5月2日(木) <研究組織、研究主題の決定及び事業計画の立案>

- ・各自が新学習指導要領の趣旨を生かし、生活経験の乏しい子どもたちが増えてきている状況の中で、より実践的・体験的な活動を取り入れた授業づくりに向けて研究を深めていく。
- ・地域で栄養指導に当たっている方を講師として招聘し、郷土料理の調理実習を行い、食に関する知識や経験を広げる。

(2) 研修会 8月20日(火)

① 教育課程伝達講習

- ・学習評価や各観点の評価、言語活動の充実等について実践例を基に、伝達講習会を実施した。

② 実習・情報交換

【調理実習】

栄養士として、市内で子どもから高齢者まで様々な年齢を対象に長年料理教室の指導に当たってこられた方を講師に、郷土料理の実習を行った。調理をしながら、郷土料理の説明やおいしくする一手間等を具体的に指導していただいた。参加者には、郷土料理を含め調理経験の少ない教員も多く、とても参考になった。

【情報交換】

- ・講師の方からは、子どもたち対象の料理教室の様子や、家庭科における栄養指導と料理教室での栄養指導の関わり等についてお話をいただいた。また、子どもたち対象の料理教室で行っている安全性や効率性を考えた事前の準備や工程の工夫についても、具体的に聞かせていただいた。
- ・各テーブルでは、調理した郷土料理を食べながら、家庭科の授業や日常の食に関することなど、広い視点から情報交換を行った。

3 成果と課題

- ・教育課程伝達講習会では、これからの家庭科で大事にしていかななくてはならないことが明確になり、授業を展開していく上での留意点を確認できた。
- ・経験豊かな講師の方からのお話を通して、改めて食育の大切さを感じることができた。また、郷土料理の実習だけではなく、人々の願いや地域による特色を知ることができた。食生活の見直しや食文化の継承など、子どもたちに食に対する指導を進めていくためにも、こうした機会を通して経験や知識の幅を広げていきたい。
- ・小学校・中学校・総合支援学校と会員の校種が異なり、会員の専門性や経験値にも差がある。授業づくりに生きる実践的・体験的な活動、専門的な考え等を学ぶ機会など、会員のニーズに応じた研修の内容を検討していくことが課題である。